

石立山生物群集保護林



石立山(1,707m)は、剣山と三嶺を結ぶ稜線から少しはずれた高知・徳島の県境上に位置する石灰岩の山です。

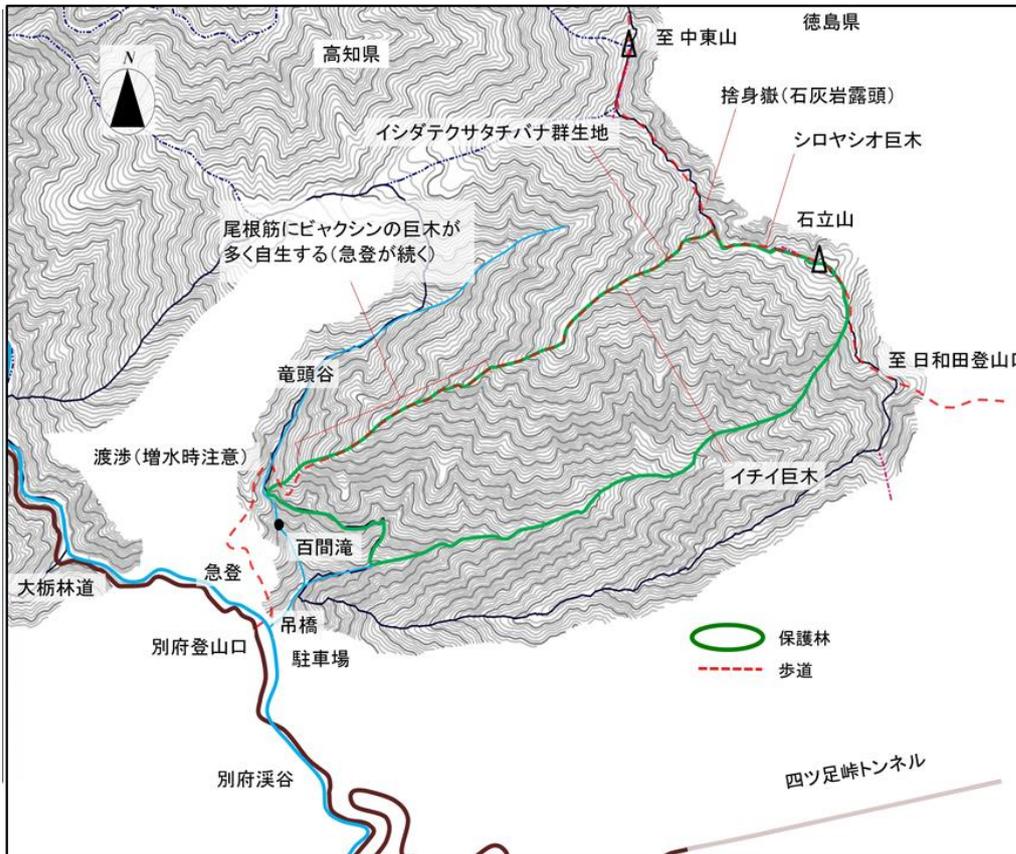
四国で一番険しい山とも言われ、急登の連続です。名前のおり石を立てたような石灰岩の露頭が点在し、なかでも徳島県側の捨身嶽は足がすくむような断崖絶壁です。この捨身嶽からは、三嶺や白髪山、ジロウギユウなどの山々を展望することができます。

別府からの登山道を登り竜頭谷をわたり尾根に出ると、ミヤマビャクシンが石灰岩の懸崖に低木状に生育しており、尾根筋の老木が風雨に身をまかせ根を張っている様は、まさに「自然の芸術品」とも言えます。

また、石立山には固有種であるイシダテクサタチバナの他、ヤチマタイカリソウ、ウスユキソウ等の高山植物が生育しています。

【保護林マップ】

石立山生物群集保護林マップ



参考コースタイム
登山口 → 竜頭渡渉地点 0:50 → 稜線部 3:00 → 石立山 0:15
石立山 → 登山口 2:30



石立山は高知県で一番急な山といわれる急登が続く山です。登山の際は十分な計画を立てて入山してください。

尾根筋は、石灰岩地帯特有の植物が自生しています。踏み荒らさないように十分注意してください。一般的なルートは、別府(高知県)からのルートと日和田(徳島県)からのルートがあります。

別府線最奥の尾根



高知と徳島の県境に広がるこの尾根にはまるで五百羅漢のようにスナの大木群が威風堂々と根を張り枝を伸ばして並び立つ。この豊かな植生が生み出す森の恵みはツキノワグマをはじめ、多様な生物の命を育んでいる豊かな森でもある。人の手がほとんど入っていない最後の聖域。

美しい三嶺山系もともろろいに眺められる。

三嶺山系
平和丸 1700.8m
ササ原が広がる

大柄杉道
ササ栂
手黒にうらぶ膝がじっと見つめては静かな。人と森、動物の性合ひに大きな課題と問うけられているように見える。

このコースのササはほとんど枯れている。はたしてシカだけが原因か？ササは50年に一度花を咲かせて枯れるとい説がある。気になるところ。

スナ五百羅漢のシバハコス
後線にはスナの大木がまるで五百羅漢のように根を張り並んでいる。スナの本神か仙人に出会えそうな気配も感じられる。静かだ。スナの白い樹皮が神々しくシルバークーエだ。

土阿回廊は昔く人の気配はほとんどない。静かな後線。自分の呼吸と足音と荷物のすれあひを以てはスナの大木が吹く風の音やわらかな木のうろのいの中甘やかな森の香りにつまれる。心は自然の中にとけこんでいく。幻想。すうと見える。独りの山は深い。

スナの木の上に空を上げる。日常のささいな悩みを一時忘れさせてくれる。空の上には県境も国境も目立たない。むしろ、主義や主張や自他の区別もない。ただ空が広がっているだけ。

森の中の生物のいのちが天に昇ると、森の空に虹が架かるといふ。

静かな山歩きのできるコース。キーンという音の無い音が耳の中で聴こえる。ここにあるのは季節の自然と時間だけだ。

山に行く山を歩く山で何かをわかましかし帰ってくるだけ。それを出るためにまた山へ行く。山を歩くことを繰り返す。

石立山植物群落保護林
シバハコスやササのササ原に希少な植物の豊かな植生

山頂のはやみ山頂

2014.4.26
山行

【上空から見た保護林】



(2012年3月22日撮影)

登山口より急坂を40分ほど登ると竜頭谷へ出ます。谷を渡り少し行くと保護林の入口です。

(看板が目印)

そこからは保護林北側の尾根が登山道です。

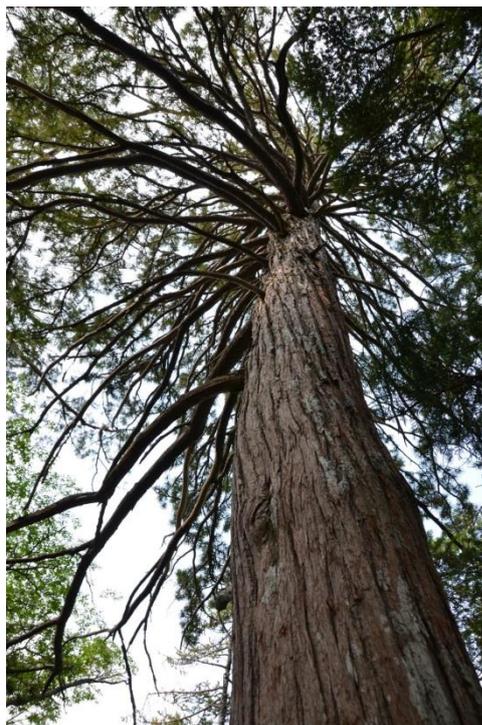
【保護内の植物】

ミヤマビャクシンの他にコウヤマキ、ウラジロモミ、ブナ、ヒメシャラ、シデ類、カエデ類等の中間温帯林が見られます。石立山山頂付近にはシロヤシオやミツバツツジの巨木も群生し、春にはきれいな花を楽しむことができます。

高山植物ではこの山特有のインダテクサタチバナをはじめ、行きワリソウ、ヤチマタイカイソウ、ウチョウラン等の様々な植物を鑑賞できます。



ミヤマビャクシンの葉



登山道沿いのコウヤマキ



石立山山頂付近のシロヤシオ



イシダテクサタチバナ